

# パスカルの《アポロジー》の プラン復元に関して (XXXIV)

竹 下 春 日

## 21 章 《永続性》

〔I〕 眞の宗教は神の摂理によるものであること、即ちその永続性は神の加護によるということ。——La. 542—Br. 655, La. 563—Br. 605, La. 610—Br. 788 (289), La. 539—Br. 614。

〔II〕 永続性の諸象面について。——(一)眞の宗教の永続性——La. 543—Br. 605, La. 313—Br. 477・606 (165), La. 554—Br. 670 (266)。 (二)メシア信仰の永続性——La. 540—Br. 613, La. 550—Br. 617 (262), La. 541—Br. 616。 (三)教会の永続性——La. 562—Br. 858 (274), La. 544—Br. 867, La. 561—Br. 859 (273)。

〔III〕 眞の宗教の維持に貢献した人々。——(一)ユダヤ民族について。——(a)ユダヤ民族の長所——La. 31—Br. 602, La. 555—Br. 619 (267), La. 552—Br. 620—(264), La. 553—Br. 631 (265), La. 549—Br. 630 (261), La. 557—Br. 630 (269)。 (b)ユダヤ民族の永続性——La. 415—Br. 628 (196), La. 458—Br. 622 (215), La. 551—Br. 621 (263), La. 556—Br. 618 (268); La. 416—Br. 594 (197), La. 421—Br. 593 (302)。 (二)各宗教の二種類の人々について——La. 548—Br. 608, La. 545—Br. 609, La. 546—Br. 607。

〔IV〕 聖書の意義について。——(一)聖書の意義——La. 564—Br. 632 (276), La. 565—Br. 633 (277), La. 566—Br. 634 (278)。 (二)聖句の明瞭さについて——La. 547—Br. 689, La. 538—Br. 690。

## 22 章 《モーセの証拠》

〔I〕ユダヤ民族の族長たちの長命が、過去の事実の物語(旧約中のもの)を、保存するのに役立ったということに就いて。——La. 567—Br. 626。

〔II〕律法に対するユダヤ民族の熱心さ。——La. 571—Br. 703, La. 574—Br. 702。

〔III〕モーセの証言。——(一)証言の内容——La. 569—Br. 624。(二)モーセの証言の確実性に対する裏づけ——La. 572—Br. 629, La. 573—Br. 625。

〔IV〕奇蹟や知恵の偉大さは、神への愛をもたらし得ないということ、これを可能にし信仰の情熱をもたらすものは、「十字架の愚かさの力」のみであるということに就いて。——La. 568—Ba. 587, La. 570—Br. 204 bis。

## 23 章 《この神の証明法の卓越性》

〔I〕神にかんする形而上学的証明は、説得力が弱いということに就いて。——La. 381 Br. 543, La. 297—Br. 78 (152), La. 19—Br. 243 (19), La. 26—Br. 244, La. 456—Br. 428 (213)。

〔II〕イエス・キリストを介してのみ、神を証明しうる、或はイエス・キリストを介しなければ、神を証明しえないということに就いて。——La. 380—Br. 547, La. 382—Br. 549, La. 602—Br. 548 (281)。

〔III〕イエス・キリストを知ることは、墮落と悲惨から救われる道であるということに就いて。——La. 317—Br. 586 (169), La. 383—Br. 527。

## 24 章 《表徴としての律法》

〔I〕象(表)徴主義的解釈の必要性。——La. 485—Br. 900, La. 491—Br. 684。

〔II〕象徴主義的解釈の妥当性を示す実例。——La. 492—Br. 728。

〔III〕聖書の章句にかんする誤った解釈。——La. 486—Br. 648, La. 488—Br. 649, La. 521—Br. 646 (245)。

〔IV〕 符号（暗号）chifres としての聖書。——（一）聖書は符号である。——  
 (a) 聖書の上に置かれたヴェール——La. 514—Br. 676 (239)。 (b) 両義性と  
 旧約聖書の符号性——La. 499—Br. 677, La. 510—Br. 691。 (c) 新約におけ  
 る符号を解く鍵——La. 483—Br. 681。 (d) 旧約における《喜びの表徴》と、  
 新約における喜びに到達する《方法》としての《悔悛》——La. 533—Br. 661  
 (258), La. 527—Br. 666 (252)。

（二）符号としての章句の特徴。——(a) 章句の相反・矛盾——La. 493—Br.  
 685, La. 497—Br. 686。 (b) 字義と靈的意義（秘義）——La. 484—Br. 667,  
 La. 503—Br. 692, La. 506—Br. 687。 (c) 表徴の変化性——La. 522—Br.  
 669 (247)。

〔V〕 表徴の内容と実例。——（一）旧約聖書における表徴——La. 479—Br.  
 647, La. 480—Br. 657, La. 481—Br. 674, La. 482—Br. 653, La. 500—Br.  
 719, La. 501—Br. 680, La. 516—Br. 682 (241), La. 523—Br. 656 (259),  
 La. 524—Br. 766 (249), La. 517—Br. 659 (242)。 (二) 新約聖書における表  
 徴——La. 502—Br. 683, La. 534—Br. 658 (259), La. 653—Br. 778 (306)。

〔VI〕 表徴にかんするユダヤ人の無理解と、その宗教的意義。——（一）表徴  
 に対するユダヤ人の誤解及び無理解——La. 490—Br. 662, La. 498—Br. 746,  
 La. 457—Br. 577 (214)。 (二) ユダヤ人の無理解・誤解にかんする宗教的意  
 義について——La. 496—Br. 762, La. 507—Br. 745, La. 525—Br. 664 (250),  
 La. 650—Br. 714 (303), La. 526—Br. 663 (251), La. 531—Br. 671 (256)。

〔VII〕 イエス・キリストと表徴。——（一）聖書の理解のための、イエスの言  
 行の啓示性——La. 487—Br. 679。 (二) イエスの来臨の仕方——La. 489—  
 Br. 758, La. 494—Br. 757, La. 495—Br. 757。 (三) イエスの教えた事柄——  
 La. 505—Br. 545。 (四) イエスは自分自身の証拠を、前代の預言より引き出  
 した——La. 511—Br. 794 (236)。 (五) イエスの本当の弟子とそうでない弟子  
 との相違——La. 528—Br. 519 (253)。 (六) イエスのわざと表徴——La. 532  
 —Br. 665 (257)。

〔VIII〕 表徴の存在理由。——La. 509—Br. 643, La. 512—Br. 644 (237), La.

518—Br. 571。

〔IX〕 聖約と表徴。——(一) メシアの真理と表徴——La. 324—Br. 857 (176), La. 519—Br. 675 (244), La. 520—Br. 646 (245), La. 530—Br. 673 (255)。 (二) 神の全智全能と表徴——La. 535—Br. 654 (260)。 (三) «聖書の唯一の目的» としての«愛»と表徴——La. 504—Br. 670。

〔X〕 旧約と新約とを一度に証明すること。——La. 508—Br. 642。

### 25 章 «ラビの教え»

La. 536—Br. 635, La. 537—Br. 446。

### 26 章 «特別の表徴»

La. 665—Br. 652, La. 666—Br. 623。

### 27 章 «預 言»

〔I〕 預言の特性。——(一) 預言の意味と、その理解のための内面的条件——La. 619—Br. 732, La. 660—Br. 698 (313)。 (二) 預言の非偶然性および真実性——La. 617—Br. 694, La. 630—Br. 738。 (三) 預言の表現法——La. 627—Br. 709, La. 476—Br. 830 (233), La. 635—Br. 756, La. 659—Br. 712 (312)。

〔II〕 預言と神の業。——(一) 預言が神によることの証拠——La. 664—Br. 713 (317), La. 620—Br. 734, La. 625—Br. 716, La. 636—Br. 727 bis。 (二) 預言が神に由来することの傍証——(a) バビロンの捕囚——La. 633—Br. 637。 (b) 異教の神々の没落を象徴する伝承——La. 634—Br. 695。 (c) 天地創造と大洪水、及びモーセの律法の成立と、預言の成就——La. 461—Br. 576 (218)。 (d) イエス・キリストの宗教に反対する人々の動きと、この動きに反抗してこれを屈服させた平凡な人たちの動き——La. 642—Br. 783 (295)。 (三) 神が預言を行う理由。——(a) 預言が世界中に拡がってゆくようにする為め——La. 626—Br. 706。 (b) 不信仰者たちを遠去けるようにする為め——La. 658—

Br. 568 (311)。

〔Ⅲ〕 預言の内容。——(一) イエス・キリスト出現以前に行なわれた預言。——(a) ヤコブとモーセの預言と、その成就——La. 646—Br. 711 (299)。 (b) ヤコブ、イスラエル、シオン、ユダにかんする預言——La. 661—Br. 726 (314)。 (c) ヨシヤとモーセの預言およびユダヤ人の供え物にかんする預言——La. 648—Br. 714 (301)。 (d) アツスリヤ人によるイスラエルの滅亡と、ディアスポラ・《栄光ある第二の神殿》にかんする預言——La. 652—Br. 715 (305)。 (e) ダビテがユダヤ王となること、及びイスラエルが神の《長子》となることにかんする預言——La. 644—Br. 713 bis (297)。 (f) ダビテ一族の永久支配は、現世では決して実現しないという預言——La. 639—Br. 718。 (g) メデア・ペルシャ・ギリシャの諸王の歴史変遷と、神の摂理とにかんする預言——La. 662—Br. 722 (315)。 (h) ダニエルにかんする預言——La. 632—Br. 723。 (二) 新約にかんする預言——La. 637—Br. 729, La. 656—Br. 736 (309)。 (三) イエス・キリストにかんする預言について。——(a) イエス・キリスト来臨にかんする象徴的なる言葉と預言——La. 631—Br. 720, La. 467—Br. 741 (224)。 (b) 来臨預言の古さと永続性——La. 623—Br. 710。 (c) 来臨の時期について——La. 624—Br. 708。 (d) 来臨の仕方について——La. 628—Br. 753。 (e) 完全な道を教える人として来臨すべきイエス・キリスト——La. 616—Br. 733。 (f) 《救い主の一生を通じて》の神の預言——La. 657—Br. 731 (310), La. 647—Br. 727 (300)。 (四) メシアの証人たち——La. 622—Br. 748, La. 559—Br. 750 (271), La. 655—Br. 760 (308), La. 641—Br. 749 (294)。 (五) 肉的ユダヤ人に対する神の拒否についての預言——La. 638—Br. 735, La. 649—Br. 714 (302)。 (六) 神とイエス・キリストによる異邦人の召喚・回心にかんする預言——La. 614—Br. 773, La. 615—Br. 730, La. 618—Br. 770, La. 621—Br. 725, La. 629—Br. 724。

## 28章 《イエス・キリストの証拠》

〔Ⅰ〕 イエス・キリストがメシアであることの、預言とその成就による証明。

—La. 589—Br. 697, La. 596—Br. 699, La. 645—Br. 739 (298), La. 529—Br. 782 (254), La. 581—Br. 743, La. 663—Br. 761 (316), La. 582—Br. 638。

〔Ⅱ〕 イエス・キリスト自身の言行による証明。——(一) 神に相応しいイエス・キリストの語り方——La. 580—Br. 799, La. 586—Br. 797。 (二) 神とバプテスマのヨハネとの証言——La. 607—Br. 784 (286)。

〔Ⅲ〕 メシア来臨の結果とその徴しとしての、 聖らかさ。——La. 578—Br. 772。

〔Ⅳ〕 イエス・キリストの弟子たちは、 詐欺師ではないということ、 即ち彼らの証言の正しさ。——La. 587—Br. 801, La. 599—Br. 802, La. 513—Br. 572 (238)。

〔Ⅴ〕 神の証人としてのユダヤ人たち。——(一) 証人としてのユダヤ人——La. 583—Br. 763, La. 584—Br. 764, La. 591—Br. 639, La. 588—Br. 640, La. 604—Br. 641 (283), La. 603—Br. 714 (279)。 (二) ヘロデについて——La. 597—Br. 178, La. 612—Br. 179 (291)。

〔Ⅵ〕 イエス・キリストが、 旧約・新約の《中心》 leur centre の位置を占めていること。——La. 592—Br. 752, La. 576—Br. 742, La. 600—Br. 740 (279)。

〔Ⅶ〕 ヨセフによって象徴されたイエス・キリスト。——La. 608—Br. 768 (287)。

〔Ⅷ〕 「カエサルのほか、 私たちには王はない。」 の言葉による証明。——La. 651—Br. 721 (304)。

〔Ⅸ〕 聖書の記述の特性による証明。——(一) 正典の証人としての異端者について——La. 590—Br. 569。 (二) 聖書の外見上の不一致について——La. 595—Br. 755。 (三) 記者の叙述の客観性について——La. 593—Br. 800, La. 428—Br. 798 (207)。

〔Ⅹ〕 神の摂理による世界の動向を、 根拠とする証明。——La. 594—Br. 701, La. 606—Br. 700, La. 203—Br. 176 (100)。

〔XI〕 イエス・キリストにかんする歴史家たちの無記録は、イエス・キリストの實在に対する反証とはならないということ。——La. 577—Br. 786, La. 611—Br. 787 (290)。

〔XII〕 三つの秩序における偉大なるものの光輝について。——La. 575—Br. 283, La. 585—Br. 793, La. 605—Br. 792 (284)。

〔XIII〕 マホメットのわざとイエス・キリストのわざとの比較。——La. 598—Br. 600, La. 560—Br. 766 (272)。

〔XIV〕 奇蹟の組み合わせの非偶然性による証明。——La. 579—Br. 809。

(註) ——本章は、預言を含む《奇蹟》miraclesの統計的確率の高さおよび組み合わせの整合的編成の妥当性とその目的必然性とを基礎とする、パスカルの数学的発想にもとづくものであり、更にこれらに対して補足的証明を加えている。而して21°章～27°章は、この数学的論証のための準備工作に外ならない。

## 29章 《結 論》

〔I〕 神を知る二種類の人々について。——La. 310—Br. 288 (162)。

〔II〕 神を知ることと、神を愛することとの次元差について。——La. 727—Br. 280; La. 729—Br. 825。

〔III〕 神が人の《心を傾かせる》ことによって、真の信仰が可能になるということ。——La. 730—Br. 284。

〔IV〕 真の信仰者のあり方について。——La. 731—Br. 286; La. 728—Br. 470; La. 732—Br. 287。

〔V〕 隠れた神について。——La. 315—Br. 557 (167); La. 734—Br. 584 (353); La. 733—Br. 848 (352); La. 735—Br. 847 (354)。

〔VI〕 宗教の証拠の不確実さについて。——La. 736—Br. 564 (355)。

〔VII〕 隠れた神の存在の証拠。——La. 453—Br. 559 bis (350)。

(註) ——本章は、《隠れた神》Dieu cachéを主題とするものであるが、これはまさにパスカルの宗教体験(彼の《Mémorial》に記録)に基づくものである。

(完 結)